

都市再生整備計画 事後評価シート

桜町・花畑地区

令和4年2月

熊本県熊本市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県		市町村名	熊本市		地区名	桜町・花畑地区			面積	14ha		
交付期間	平成30年度～令和2年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	3165百万円	国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	花畑公園、辛島公園、シンボルプロムナード、(仮称)花畑広場、辛島町第1号線、紺屋今町花畑町第1号線ほか、辛島公園地下通路										
		効果促進事業 提案事業	辛島公園地下駐車場整備事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		効果促進事業 提案事業											
	新たに追加した事業	効果促進事業 提案事業	辛島公園北側道路の歩行者空間化に向けた社会実験 夜間景観の形成に向けた調査業務 良好な景観の形成に向けた調査業務 建て替え等による賑わい創出推進事業				○「辛島公園北側道路の歩行者空間化に向けた社会実験」については、オープンスペースを分断している道路の歩行者空間化を目指し社会実験を行うことによって、桜町・花畑地区を”車中心”から”人中心”への転換の象徴として整備することに繋がる為。 ○「夜間景観の形成に向けた調査業務」「良好な景観の形成に向けた調査業務」については、昼だけでなく夜も歩いて出かけたくなるような、魅力ある夜間景観の形成に向けた検討を行うことや、良好な景観となるような公共サイン等の調査や景観の向上に向けた検討を行うことによって、更なる回遊性の向上を目指すことに繋がる為。 ○「建て替え等による賑わい創出推進事業」については、官民が連携した老朽建築物の建て替え等の推進をはかることによって、更なる地区の賑わい創出に繋がる為。	まちづくりの目標にプラスの効果があると考えられる					
交付期間の変更	当初	平成30年度～令和2年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更	平成30年度～令和2年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	桜町・花畑地区周辺の地価上昇率	%	100	平成30年	102.5	令和3年	—	133.6 (R2)	○	あり ● なし	事業実施に伴う効果発現により、計画区域内の都市機能及び生活環境が向上し、計画区域内の地価上昇につながっている。	令和4年度末
	指標2	オープンスペースの来場者数	人	585,530	平成29年	1,018,313	令和3年	—	1,018,313 (R3)	○	あり ● なし	事業実施に伴う効果発現により、多様な賑わいの創出に繋がり、オープンスペースの来場者数増加に繋がると想定される。	令和4年度末
	指標3	地下通路の通行者数	人	8,676	平成26年	13,014	令和3年	—	13,014 (R3)	○	あり ● なし	事業実施に伴う効果発現により、中心市街地の回遊性向上により、地下通路の通行者数の来場者数増加に繋がると想定される。	令和4年度末
指標4	中心市街地内の居住人口	人	36,604	平成28年	37,000	令和3年	—	37,651 (R3)	○	あり ● なし	事業実施に伴う効果発現により、計画区域内の都市機能及び生活環境が向上し、中心市街地内の居住人口増加につながってきている。	令和4年度末	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1					—							
	その他の数値指標2					—							
その他の数値指標3					—								
4)定性的な効果発現状況	—												

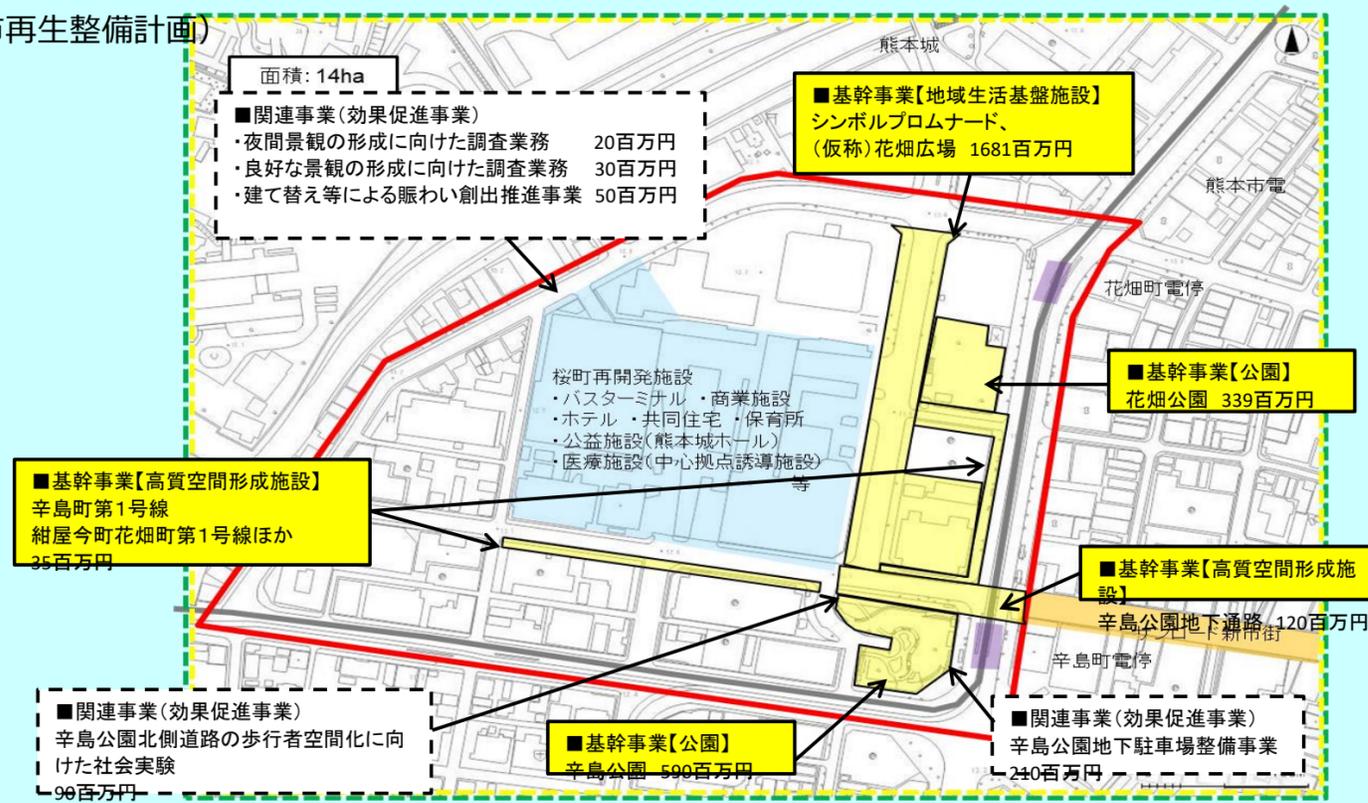
		実施内容	実施状況	今後の対応方針等		
5)実施過程の評価	モニタリング	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
	住民参加プロセス	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			
	持続的なまちづくり体制の構築	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた			
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

様式2-2 地区の概要

桜町・花畑地区(熊本県熊本市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
<p>人口減少、高齢化の進展への対応として、官民の取り組みにより、本市の中心市街地回遊の要である桜町・花畑地区において、高度な都市機能の集積、多様な賑わいを創出し、中心市街地の回遊性向上、ひいては、持続可能な都市の実現を目指す。</p> <p>・桜町地区では、民間による再開発事業により都市機能の更新・導入を図り、隣接する花畑地区では、利活用において自由度の高い“広場”(シンボルプロムナード、(仮称)花畑広場)の整備や公園の再整備を行うことで賑わいの創出を図る。</p> <p>また、コンセプトである「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」を具現化していくことで、熊本城周辺との回遊性を高めることはもとより、中心商店街とのアクセスルートのひとつである“地下通路”を明るく快適で利用しやすい空間としていくことや、城下町風情の感じられる地区へとつながる(周辺)道路を美装化し、賑わいの波及へとつなげていく。</p> <p>・官民が連携した市民参加型のプロジェクトやまちの賑わいを創出するイベント等を実施し、地区の賑わいを創出する。</p> <p>・桜町・花畑地区を“車中心”から“人中心”への転換の象徴として整備することに合わせ、辛島地下駐車場の機能向上を図り、中心市街地への車の流入の抑制を図る。</p> <p>・熊本地震後の居住人口の減少に対応し、商業・文化・業務機能と共存した機能性の高いまちなか居住を促進する。</p>	桜町・花畑地区周辺の地価上昇率	単位: %	100.0 平成30年	102.5 令和3年	133.6 令和2年
	オープンスペースの来場者数	単位: 人	585,530 平成29年	1,018,313 令和3年	1,018,313 令和3年
	地下通路の通行者数	単位: 人	8,676 平成26年	13,014 令和3年	13,014 令和3年
	中心市街地内の居住人口	単位: 人	36,604 平成28年	37,000 令和3年	37,651 令和3年(7月時点)
		単位:			

事業概要図(桜町・花畑地区都市再生整備計画)



まちの課題の変化	・整備完了後、賑わい創出の場の完成や回遊性の向上には繋がると思われるが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛により来場者数及び通行量の減少が見られる。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	・完成後の景観や機能を維持していくことはもとより、広い世代がより活用出来る空間を提供し続ける為に、伝統文化とエンターテインメントが共鳴する賑わいの場を催しもの等を通し、継続的に生み出していく。又、その様子等を様々な媒体で発信し続け、誰もが訪れてみたい空間形成を行い続ける。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区の都市再生整備計画の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 熊本市公共事業評価監視委員会の審議

- 添付様式8 熊本市公共事業評価監視委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		○			
B. 目標を定量化する指標		○			
C. 目標値		○			
D. その他()		○			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
公園	花畑公園	412.1	2,600m ²	339.0	2,600m ²	事業の精査に伴う事業費の増	事業費は増加したものの、事業は実施されており目標、指標等への影響はない	○	
	辛島公園		3,400m ²	590.0	3,400m ²	事業の精査に伴う事業費の増	事業費は増加したものの、事業は実施されており目標、指標等への影響はない	○	
地域生活基盤施設	シンボルプロムナード、(仮称)花畑広場	1785.0	8,800m ²	1681.0	10,400m ²	事業の精査に伴う事業規模の増及び事業費の減	事業費は減少、事業規模は増加したものの、事業は実施されており目標、指標等への影響はない	○	
高質空間形成施設	辛島町第1号線、紺屋今町花畑町第1号線ほか	64.0	390m	35.0	390m	事業の精査に伴う事業費の減	事業費は減少したものの、事業は実施されており目標、指標等への影響はない	○	
	辛島公園地下通路	137.7	1,400m ²	120.0	1,400m ²	事業の精査に伴う事業費の減	事業費は減少したものの、事業は実施されており目標、指標等への影響はない	○	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

効果促進事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
辛島公園地下駐車場整備事業		辛島公園地下駐車場	210	210	H30-H31	H30-R2	工事に伴い事業未完了	
辛島公園北側道路の歩行者空間化に向けた社会実験		辛島公園北側道路	—	90	—	H31-R2	R2年度実施し、今後2回目実施	
夜間景観の形成に向けた調査業務		計画区域内	—	20	—	H31	計画通り事業完了	
良好な景観の形成に向けた調査業務		計画区域内	—	30	—	R2	計画通り事業完了	
建て替え等による賑わい創出推進事業		計画区域内	—	50	—	R2	計画通り事業完了	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	桜町・花畑地区周辺の地価上昇率	%	—	—	100	H30	102.5	R3	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●	
									事後評価	確定見込み ○	133.6	事後評価	○		
指標2	オープンスペースの来場者数	人	—	—	585,530	H29	1,018,313	R3	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●	
									事後評価	確定見込み ○	1,018,313	事後評価	○		
指標3	地下通路の通行者数	人	—	—	8,676	H26	13,014	R3	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●	
									事後評価	確定見込み ○	13,014	事後評価	○		
指標4	中心市街地内の居住人口	人	—	—	36,604	H28	37,000	R3	モニタリング	—	—	モニタリング	—	●	
									事後評価	確定見込み ○	37,651	事後評価	○		
指標5									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事業実施に伴う効果発現により、計画区域内の都市機能及び生活環境が向上し、計画区域内の地価上昇に繋がっている。	評価値(令和3年)は令和2年時点の測定値が既に目標値を達成していることから、推計値ではなく実数を用いているが、施工未竣工の為、数値は見込みとし、R4年度にフォローアップを行う。再開発事業による整備効果が発現されたもの。
指標2	事業実施に伴う効果発現により、多様な賑わいの創出に繋がり、オープンスペースの来場者数増加に繋がると想定される。	施工未竣工の為、数値は見込みとし、R4年度にフォローアップを行う。
指標3	事業実施に伴う効果発現により、中心市街地の回遊性向上により、地下通路の通行者数の来場者数増加に繋がると想定される。	施工未竣工の為、数値は見込みとし、R4年度にフォローアップを行う。
指標4	事業実施に伴う効果発現により、計画区域内の都市機能及び生活環境が向上し、中心市街地内の居住人口増加に繋がってきている。	評価値(令和3年)は令和3年時点の測定値が既に目標値を達成していることから、推計値ではなく実数を用いているが、施工未竣工の為、数値は見込みとし、R4年度にフォローアップを行う。再開発事業による整備効果が発現されたもの。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度					
その他の 数値指標1							モニタリ ング	—	—		—
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリ ング	—	—		—
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリ ング	—	—		—
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討チーム	都市再生整備計画に関わる庁内関係課(市街地整備課、都市デザイン課、企業立地推進室、誘致戦略課)	令和3年7月29日	市街地整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4		
指標名		桜町・花畑地区周辺の地価上昇率	オープンスペースの来場者数	地下通路の通行者数	中心市街地内の居住人口		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	花畑公園	◎	計画区域内の生活環境の向上が見込まれ、R2年度末において、地価が約30%上昇している。このことから、今後は更なる地価上昇が見込まれる。	○	施工完了後においては、中心市街地の回遊性向上が見込まれる。居住人口の増加からも、計画区域内の地下通路の通行者数増加が見込まれる。	◎	計画区域内の生活環境の向上が見込まれ、R3年7月において、中心市街地内の居住人口が約1,000人増加している。このことから、今後は更なる中心市街地内の居住人口の増加が見込まれる。
	辛島公園	※◎		※○			
	シンボルプロムナード、(仮称)花畑広場	※◎		※○			
	辛島町第1号線、紺屋今町花畑町第1号線ほか	◎		○			
	辛島公園地下通路	◎		◎			
	※は現在施工中						
効果促進事業	辛島公園地下駐車場整備事業	※◎	※○	※◎	※◎		
	辛島公園北側道路の歩行者空間化に向けた社会実験	※○	※○	※○	※○		
	夜間景観の形成に向けた調査業務	○	○	○	○		
	良好な景観の形成に向けた調査業務 建て替え等による賑わい創出推進事業	○ ※○	○ ※○	○ ※○	○ ※○		

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4
	今回の整備により、計画区域内の生活環境の向上が見込まれ、地価の上昇に繋がっているため、上質な空間を維持し、持続可能な都市の実現に繋げるもの。	まちの賑わいを創出するイベント等を実施し、地区の賑わいを創出する。桜町・花畑地区のみでなく中心市街地全体への回遊性を向上させ、賑わい創出へ繋げる。	中心商店街とのアクセスマートのひとつである「地下通路」を快適で利用しやすい空間にすることで、双方の来訪者増加による相乗効果を図る。	今回の整備により、計画区域内の生活環境の向上が見込まれ、中心市街地内の居住人口増加に繋がっているため、上質な空間を維持し、持続可能な都市の実現に繋げるもの。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4		
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類									
基幹事業	花畑公園												
	辛島公園												
	シンボルプロムナード、(仮称)花畑広場												
	辛島町第1号線、紺屋今町花畑町第1号線ほか												
	辛島公園地下通路												
効果促進事業	辛島公園地下駐車場整備事業												
	辛島公園北側道路の歩行者空間化に向けた社会実験												
	夜間景観の形成に向けた調査業務												
	良好な景観の形成に向けた調査業務												
	建て替え等による賑わい創出推進事業												
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)													

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価検討チーム	都市再生整備計画に関わる庁内関係課(市街地整備課、都市デザイン課、企業立地推進室、誘致戦略課)	令和3年7月29日	市街地整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<ul style="list-style-type: none"> ・熊本城周辺と中心商店街をつなぐ回遊性の要である桜町・花畑地区の拠点性(にぎわい)の低下。 ・熊本地震後における中心市街地の居住人口の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本城から続く場所に位置する花畑広場の整備を行ったことにより、平日、休日に関わらず、官民が連携した市民参加型のプロジェクトやまちの賑わいを創出するイベント等が開催され、市民や観光客によって賑わいが創出されると想定される。商業・文化・業務機能と共存した機能性の高いまちなか居住を促進できると推測される。 ○ 基幹事業実施に伴う効果発現により、計画区域内の都市機能及び生活環境が向上し、中心市街地内の居住人口増加につながってきている。 	-	
<ul style="list-style-type: none"> ・桜町・花畑地区一帯の道路について、景観的な統一が図られていない。 ・桜町・花畑地区と中心商店街をつなぐ地下通路について、暗く、寂しい印象を与えること等から、十分な利用がなされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広場、公園、地下通路を整備することにより、周囲との視線・動線の連続性を確保でき、明るく快適で利用しやすい空間としていくことや、城下町風情の感じられる地区へとつながる(周辺)道路を美装化し、賑わいの波及へとつながっていくと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後行う2回目の社会実験をもとに、交通管理者と再検討し、辛島公園北側道路の歩行者空間化の検討。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	商業・文化・業務機能と共存した機能性の高い まちなか居住を促進、及び賑わい。	・政令指定都市としての顔である「熊本城エリア」でのイベント等を通し、中心 市街地の賑わい創出及び回遊性向上を継続させ、当該地区の都市活力の維 持、向上に努める。	・花畑地区でのイベントの開催及びPR強化
	周囲との視線・動線の連続性を確保でき、明る く快適で利用しやすい空間	・城下町風情の感じられる地区へとつながる(周辺)道路、広場及び地下通路 の美装化。	・定期的な除草作業や清掃作業

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	辛島公園北側道路の歩行者空間化	辛島公園北側道路の歩行者空間化を行うことにより、回遊性の向上に繋げ る。	・社会実験を行い、交通管理者との再協議 ・設計業務委託 ・施工工事
	・未達成の目標を達成するた めの改善策 ・未解決の課題を解消するた めの改善策 ・新たに発生した課題に対する 改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標	単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
		年度	年度	年度	年度	評価値	評価値			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	桜町・花畑地区 周辺の地価上昇率	%	100	H30	102.5	R3	確定 見込み ○	133.6	○	あり ● なし	令和4年度末	桜町・花畑地区周辺の2地点の地価平均の上昇率を確定値とする。	—
指標2	オープンスペースの来場者数	人	585,530	H29	1,018,313	R3	確定 見込み ○	1,018,313	○	あり ● なし	令和4年度末	オープンスペースに来場した人数を実績値により算出する。	—
指標3	地下通路の通行者数	人	8,676	H26	13,014	R3	確定 見込み ○	13,014	○	あり ● なし	令和4年度末	商業金融課HPの辛島公園地下通路通行した歩行者通行量(平日、休日の合計)より把握し確定値とする。	—
指標4	中心市街地内の 居住人口	人	36,604	H28	37,000	R3	確定 見込み ○	37,651	○	あり ● なし	令和4年度末	住民基本台帳から中心市街地内7校区の居住人口を把握し確定値とする。	—
その他の 数値指標1							確定 見込み						
その他の 数値指標2							確定 見込み						
その他の 数値指標3							確定 見込み						

添付様式6 当該地区の都市再生整備計画の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・計画区域内における民間の再開発事業との相乗効果により、地価上昇及び居住人口増加に繋げることができた。	・官民連携した都市再生整備計画事業の取り組みが重要である。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・来場者数等、目標値を年度で集計する際には、竣工予定年度ではなく、その翌年度の評価値を定めると正確な評価が可能となる。 ・都市再生整備計画の作成時には、事後評価の実施を考慮して指標を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	・来場者数については施工完了年度を目標値としていた為、施工中の正確な来場者数が把握出来ず、評価値の推計に苦慮した。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	熊本市ホームページに掲載	2022年4月1日～2027年3月31日	2022年4月1日～2022年4月14日	電子メール、FAX、郵送	市街地整備課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	
-------	--

添付様式8 熊本市公共事業評価監視委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	熊本大学大学院先端科学研究部 教授柿本竜治委員長、 舩ワークス有限会社 代表取締役 岡裕二委員、 一般財団法人 熊本県建設技術センター理事長 上野晋也委員、 熊本県弁護士会 ふじき法律事務所 弁護士 藤木美才委員、 株式会社 熊本日日新聞社 総務部長 奥村国彦委員、 崇城大学 崇城大学 工学部 元准教授 林美貴委員、 熊本県立大学総合管理学部 准教授井寺美穂委員、 熊本大学大学院 くまもと水循環・減災研究教育センター 大学院 自然科学教育部 教授 松村政秀委員、 NPO法人 くまもと未来ネット 代表理事 原育美委員	書面開催 2022年2月14日～2022年3月14日	技術管理課	「熊本市附属機関設置条例」	熊本市独自に設置
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適切に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・「持続可能な都市の実現を目指す」の意味、趣旨について意味が分かりにくいとの意見があった。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・地価の上昇に伴い、商業ビルテナントへの負の影響はないかという意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表については妥当であると認められた。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・夜間景観づくりと併せて、治安面での安全性向上も必要との意見があった。 ・アーケード側に向かう地下通路及びその地上路の賑わいの波及に向けた検討が引き続き必要という意見があった。
	フォローアップ	・令和4年度に実施するということで確認した。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「チェックシート」を参考にしてください。